

科目名 (科目番号)	生命倫理 (081171)	教員名	大越 教夫 林 隆司 馬場 智理	学科等	理学療法・必修	履修年次	1
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2
				オフィスアワー		診療放射線学科(大越)	
授業概要	医療・保健学分野の仕事は、人の生命に直接関係する。また、知識・技術が高度に発達している。このため、患者・被験者・利用者に対して生命倫理面でも適切に対応する必要があり、臨床検査技師にも高い倫理観が求められている。この授業では、生命倫理の基本原則の確立や普及に大きな影響を及ぼした倫理綱領・倫理規程を読むとともに、先端医療の具体例により生命倫理の今日的課題について学ぶ。こうした学習を通して、生命倫理の基本原則を修得し、高い倫理観の涵養に役立てる。						
準備学習	毎回の授業について(少なくとも)1時間前後の予習・復習をする。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	ヒポクラテスの誓いと職業倫理	到達目標:インフォームド・コンセントの概念がどのようにして生まれ、普及していったのか、その概略を説明できる。 学習内容:ニュルンベルク倫理綱領、インフォームド・コンセントの概略を学習する。(馬場)				
	2	ニュルンベルク倫理綱領	到達目標:患者の自己決定権の保障することがなぜ重要なのかについて説明できる。 学習内容:「患者の権利章典」と「患者の権利に関するリスボン宣言」を学習する。(馬場)				
	3	患者の自己決定権の保障	到達目標:医療倫理の四原則と生命の尊厳について理解し、概略を説明できる。 学習内容:医療倫理の四原則、延命医療、安楽死・尊厳死、過剰治療の問題点と課題を学習する。(大越)				
	4	医療倫理の四原則と生命の尊厳	到達目標:臓器移植及びがん告知の生命倫理上の課題について説明できる。 学習内容:臓器移植の必要性、日本と外国の移植医療の違い、脳死の定義、及び臓器移植法、さらにはがん末期の告知を学習する。(大越)				
	5	臓器移植とがん告知	到達目標:具体的な環境問題、薬害を通じ倫理上の課題について説明できる。 学習内容:受動喫煙、水俣病、予防接種によるB型肝炎の集団感染、C型による薬害肝炎を学習する。(大越)				
	6	環境問題、薬害	到達目標:医療事故防止、医療事故への対応について説明できる。 学習内容:医療事故の事例を通して、医療システムの特徴やコミュニケーション上の問題を学習する。(大越)				
	7	医療事故	到達目標:歴史的事例から科学的医学の倫理面の問題点と課題について理解する。 学習内容:天然痘ワクチンや全身麻酔薬の開発などの歴史上の事例を学習する。(大越)				
	8	科学的医学と人体実験	到達目標:生殖補助医療と再生医療の倫理的な問題点と課題について理解する。 学習内容:人工授精、体外受精、代理出産等の生殖補助医療、iPS細胞による再生医療研究の現状を学習する。(大越)				
	9	生殖補助医療と再生医療	到達目標:人工妊娠中絶の生命倫理面の問題点について説明できる。 学習内容:人工妊娠中絶、女性の自己決定権、法的規制を学習する。(大越)				
	10	人工妊娠中絶	到達目標:女性の自己決定権と生命倫理面の問題点について説明できる。 学習内容:遺伝病の出生前や着床前診断を学習する。(大越)				
	11	出生前診断・着床前診断	到達目標:発症前診断の医療上の意義と生命倫理上の問題点について理解する。 学習内容:遺伝子分析技術を用いた疾患の発症前診断とその対応を学習する。(大越)				
	12	発症前診断	到達目標:人や動物を対象とした臨床研究で守るべき倫理原則について理解する。 学習内容:「ヘルシンキ宣言」、研究倫理のガイドライン概略、研究不正の実例を学習する。(大越)				
	13	研究倫理	到達目標:理学療法士など医療専門職に求められる職業倫理の現状と課題について説明できる。 学習内容:理学療法士など医療専門職に求められる職業倫理を学習する。(林)				
	14	理学療法士の職業倫理	到達目標:高い倫理観の涵養の実現方法を考察する共に多様な考え方があることを理解する。 学習内容:生命倫理で学んだ重要な事柄を質問・回答形式で再度学習する。(大越)				
	15	総合考察	到達目標:高い倫理観の涵養の実現方法を考察する共に多様な考え方があることを理解する。 学習内容:生命倫理で学んだ重要な事柄を質問・回答形式で再度学習する。(大越)				
成績評価の方法・基準	期末試験(60%)、課題レポート(40%)						
教科書	生命倫理学入門(第4版)	今井 道夫			産業図書		
参考図書							
教員からのメッセージ	教科書及び教員が用意する教材(プリント)を利用して予習・復習をすること。授業の後半に質問形式で、皆さんの倫理に関する考え方や意見を聞く。復習の際には、他の人の考え方や意見も参考にして、生命倫理の基本原則や今日的課題について確認する。授業(大越担当)の中でレポート課題を与える。レポートにはコメントを付けて次回の授業内で返却します。						